



令和5年度

多北高 FRH 通信 第02号

令和5年6月1日(木)
多北高 FRH 推進委員会
探究推進部

博物館明治村研修

令和4年度のFRH事業として、2023年3月25日(土)に博物館明治村研修を行いました。本来ならば令和4年度の通信でお知らせするところですが、都合によりここで紹介させていただきます。

博物館明治村研修は、国内でも例を見ない広大な敷地内に、主に明治期の建築物60余が立ち並ぶ、野外テーマパークです。帝国ホテルをはじめとする歴史的建築物、小説に登場した明治時代のレシピを現代風にアレンジした食べ物、ドラマのロケ地やアニメーションの設定シーンなどがあり、見学や体験を通して研修をしました。本研修は、日本史、世界史、地理、文化、建築学といったさまざまな分野の学問に関連しており、進路選択で迷っている人にも何かしらのヒントをつかむきっかけにもなりました。この通信では、研修のようすや、参加者が事後に提出したレポートの一部を、紹介させていただきます。

【感想】

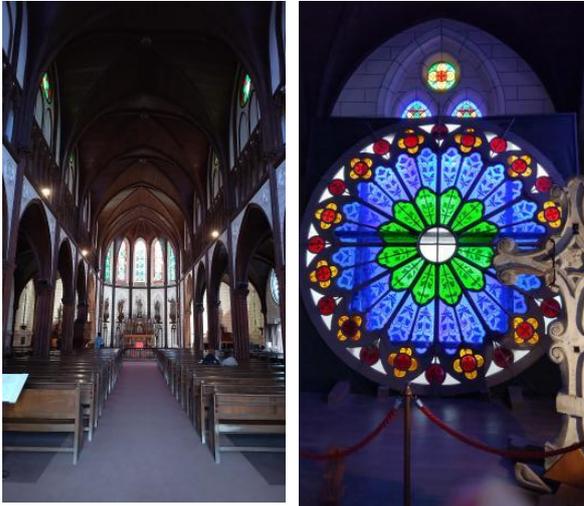
☆今回の研修を通して明治村は、当時の様子が細かく再現されていて自分がその時代にタイムスリップした気分になれる場所だと感じました。日本史や古典など普段学校で学習したことを実際に目で確かめられて、勉強することの意味も感じられた気がします。知識があればあるほどより楽しくなると思うので、もっと知識が増えたらまた行きたいと思いました。また、個人的に様々な文化に興味があって明治村に行きたいとずっと思っていたので、今回の研修で行けたことをとてもうれしく思います。

☆明治村を訪れたのは私が小学6年生の時だったと思いますが、そのときは明治代の文化などはあまり知らず、明治村を最大限楽しむことができていなかったのではないかと思います。しかし、昨年度からの世界史や日本史の授業などを通して建築様式や時代背景等を学んだことで、これは〇〇様式だな、とか、こういう時代だったなあ、とか、そういう楽しみ方ができてよかったです。また、明治代のレトロな建築は私が一番好きな日本の建築なので街並みを見ながら歩くのも楽しかったです。

☆前回、明治村を訪れたのは小学6年生の時でした。当時よりも歴史が好きになり、知らないことを楽しむことができるようになったので、今回の研修はとても有意義なものになりました。特に印象に残ったことは、聖ザビエル天主です。ステンドグラスがとても美しいことはもちろんのこと、日本人が建てたことをバスの運転手さんから聞いて、明治時代の建築技術に驚きました。明治時代は文化の発展が多く見られて面白かったです。

【研修レポートから】

レポート	写真等
<p>明治村では、住宅の中まですごく再現されているいろいろな家に行きましたが、どれを見ても暮らし方や生活がわかって興味深かったです。夏目漱石の住宅は書斎で文字まで再現されていたことや、猫のエピソードなどが書かれていたことが印象に残っています。監獄は、小学校六年生の時に見てからもう一度見たいとずっと思っていた場所だったので、また見る事ができてすごく嬉しかったです。監獄の中での暮らし方は、囚人が実際に檻の中に入っていて当時の様子を想像しながら見る事ができました。食事は一食がとても少ないと思いました。ほかにもいろいろな家を見ましたが、国や地域ごとでどれも特徴があり、住宅のつくりや食事、生活の仕方などさまざまに異なる点があってとても面白かったです。</p>	

レポート	写真等
<p>1. 聖ザビエル天主堂 明治23年に建築。 設計者はフランス人宣教師のパピノ神父、 施行者は棟梁ペトロ横田と言われる。 大アーケード、トリフォリウム※¹、丸窓のあるクリアストーリー※²の三層で構成されたゴシック様式。内部は身廊、側廊のある三廊式。 ※¹上方にあるアーチのついた狭い廊下 ※²目の高さより上の窓を含む壁の高い場所。光や空気を取り入れる</p> <p>2. 薔薇窓（ローズ・ウィンドー） 直径3.6メートル。 ゴシック様式の教会建築における特徴の一つ。 本格的なステンドグラスの製造法が日本に伝来する以前に作られた日本独自のもの。</p>	 <p>1. 聖ザビエル天主堂 2. 薔薇窓</p>

【研修のようす】

